

米山記念奨学委員会



リーダー 角田 朝則

米山記念奨学会は、日本全国のロータリー会員の寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。

この事業は、日本最初のロータリークラブの創立に貢献した実業家米山梅吉氏の功績を記念して発足しました。1952年に東京ロータリークラブで構想が立てられ、やがて日本の全クラブの共同事業に発展し、1967年に文部省(現文部科学省)の許可を得て、「財団法人ロータリー米山記念奨学会」となりました。

2012年1月に公益財団法人に移行し、2017年には、財団設立50周年を迎えました。これまでに133の国と地域から24,133人(2024年7月現在)の奨学生を支援し、規模と実績ともに民間最大級の国際奨学事業となっています。

事業の使命は将来、日本と世界を結ぶ「懸け橋」となって国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成することです。これは、ロータリーの目指す“平和と国際理解の推進”そのものです。

特長であり、この事業の神髄とも言えるのが「世話クラブ・カウンセラー制度」です。

奨学生一人ひとりに、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、日本での生活が心豊かなものになるよう配慮しています。

本年度の当委員会の活動方針としては、米山奨学制度の広報活動の推進例会での奨学生のスピーチ、米山奨学月間に寄付金の協力依頼を中心に実施していきたいと思っておりますので、会員の皆様のご指導ご協力をよろしくお願いいたします。